

沖縄県内保育所・保育園における地域に根差した造形教育の取組み ～身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査～

Regarding Art Education Using Native Plants in Nursery Schools in Okinawa Prefecture. — Research and Questionnaire Results on Molding, Dyeing, and Weaving Native Plants in Art Education Activities —

佐久本 邦 華
Kunika Sakumoto

要 約

本研究は、沖縄の伝統行事や伝統工芸および民芸が、どの程度沖縄の保育現場に取り入れられているのかについて調査し、まとめたものである。2016年8月に「保育現場における幼児と沖縄の植物とのかかわり」について無記名アンケート調査を実施し、144件のデータを分析した。その結果、エイサーやムーチーづくりなど、沖縄の人に広く知られていると思われる沖縄の伝統行事を活動に取り入れている園の割合は、全体で97.2%と非常に高かったが、沖縄の植物を用いた昔ながらの玩具作り（ソテツの虫籠やアダンの葉で作る風車など）といった伝承造形活動を取り入れている園の割合はおおむね8～15%前後と極端に下がった。さらに現在、沖縄の身近な植物を使った染め物製作を取り入れている園は、宮古・八重山地区の13.0%を筆頭に、南部地区および北部地区で約10%、中部地区では2.4%と下がり、その他離島では0.0%であった。アンケートに答えて下さった先生方も、沖縄の植物や草木染めに興味があるものの、本島内の先生方に関しては、実際に体験したことのない先生方の割合も高く、保育を指導する側への普及活動の必要性も感じられた。

はじめに

沖縄の各地には、そこに根付いた祭礼（祀り・祭り）があり、年中行事を通してその祭礼で奏でられる音楽、言葉、響き、リズム、衣装や装飾品の色、形、文様、そしてその儀式に込められた願いや思いが脈々と受け継がれている。それらは沖縄の土地に住む人々の感性をかたち作るものである。沖縄は古代より海を介して広く外国と交易を行い、輸入原料や異国文化の要素を取り入れながらも、各地で沖縄色豊かな美術工芸品や民芸品、そして玩具を発展・継承してきた。それらには沖縄の芸術的要素の多様性と独自性が見られる。そして、その多様性と独自性は、子どもたちを含めた沖縄の人たちの、沖縄の人としての感性を刺激し、他者との文化的・歴史的背景の違いについて理解を深め、世界に開かれたまなざしを持つ基盤となると筆者は考える。それゆえ、幼いころから、地域に根差した行事、祭礼、芸能、美術工芸品や民芸、玩具に触れ、体験を通し感性を高めることは、幼児教育にとって重要な意味を持つと考える。以上のことを踏まえ、私は地域に根差したさまざまな素材を用い、子どもたちの感性を育て、創造性を刺激できるような魅力的、かつ楽しい造形プログラムを作成したいと考えた。そしてそれに先立ち、保育現場の現状を把握すべく、今回の調査を行うこととした。

調査のはじめとして、現在保育所・保育園の保育プログラムにどの程度、伝統行事や芸能、工芸や民芸に触れられるプログラムが取り入れられているのか、またその結果に地域差はみられるのかについて検証するため、アンケート調査を実施した。また合わせて、アンケートに回答して下さっている先生方の、伝統工芸に対する意識調査も質問項目に挙げている。

1. 方法

1.1 アンケート

アンケートは単一選択型の無記名式としたが、各項目において地域別集計を取るため、アンケートに市町村名を記入し返信していただく形をとった。質問項目は全15問であり、最後に自由記述式の欄が用意されている。(アンケート用紙は【付録】に添付)

1.2 アンケートシートの質問事項

表1 質問事項

<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容に、ムーチーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。 2. 保育内容に、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。 3. 保育内容に、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。 4. びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。 5. びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。 6. 身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。 7. 沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？ 8. 沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？ 9. 沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？ 10. フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？ 11. 「たたきぞめ」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？ 12. 草木染めを実際に体験したことはありますか？ 13. 子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？ 14. やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？ 15. やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？ <p>保育所・保育園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容をお教えいただければ幸いです。</p>
--

アンケートは「保育現場における幼児と沖縄の植物とのかかわり」についてというタイトルで8月初旬に送付、9月上旬までに回答を得た。Q.1～Q.6までは、主に園での取り組みに関

する質問であり、Q.7～Q.15までは、主にアンケートに答えて下さった先生に対する質問項目となっている。

2. 分析

2.1 調査対象

県内の公立保育所、および認可保育園428か所（2015年12月現在）中、323か所にアンケートを依頼した。地理的な偏りが出ないように、地図上で保育所・保育園の所在地を確認しながら送付先を絞る作業を行った。また、離島やへき地も含め、なるべく広範囲に依頼先が分散されるよう園を選定した。内訳は北部地区／北部福祉保健所管内（名護市・国頭村・大宜味村・東村・今帰仁村・本部町・伊江村・伊平屋村・伊是名村）35か所、中部地区／中部福祉保健所管内（宜野湾市・沖縄市・うるま市・恩納村・宜野座村・金武町・読谷村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村）90か所、南部地区／南部福祉保健管内（那覇市・浦添市・糸満市・豊見城市・南城市・西原町・八重瀬町・与那原町・南風原町・久米島町）155か所、宮古・八重山地区／宮古福祉保健管内・八重山福祉保健管内（宮古島市・多良間村・石垣市・与那国町）40か所、その他（渡嘉敷村・粟国村・南大東村）3か所、となっている（図1参照）。

2.2 分析対象

アンケートは2016年8月初旬に送付、同年9月中旬までに回収した。323か所にアンケートを依頼し、223か所よりアンケートの回答があったが（回答率69.0%）、本論文では「身近な植物の園での取り入れられ方に、地域間で差が出てくるのか。」という視点からも分析を行うため、

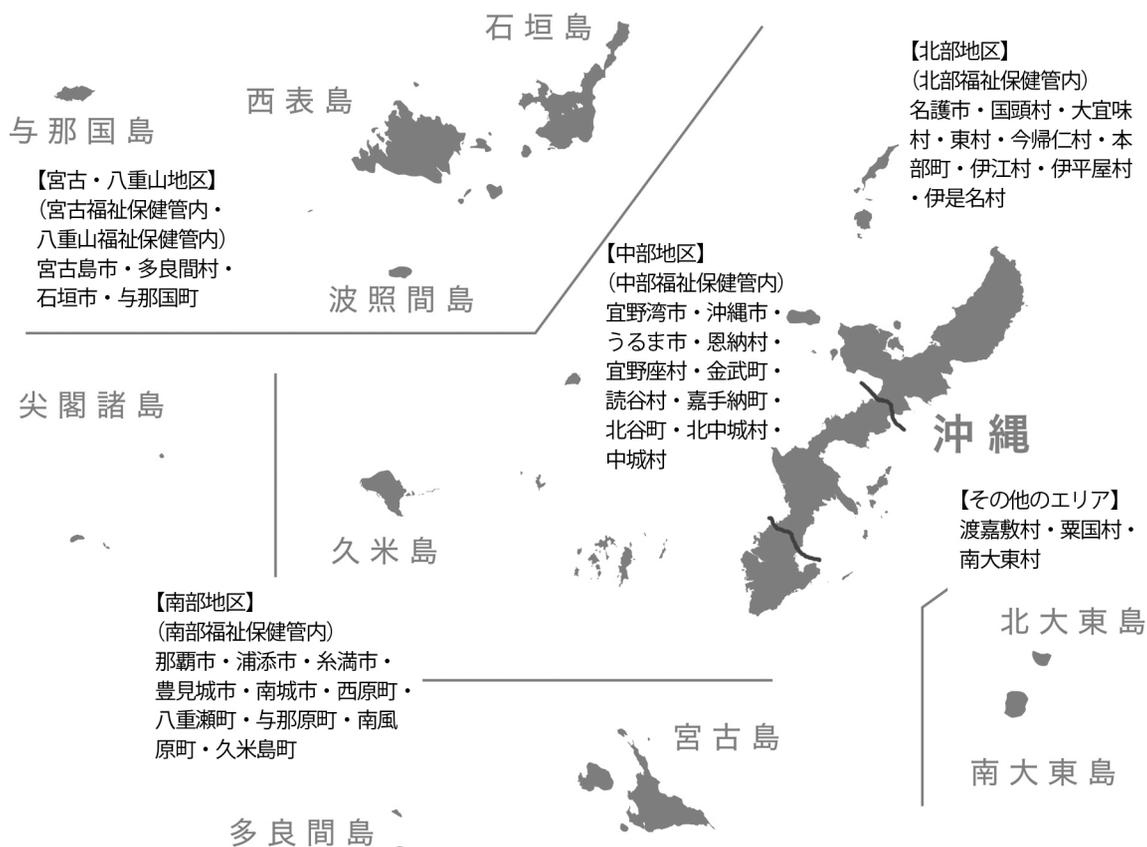


図1 福祉保健管内による地域区分

回収したアンケートに市町村名等、所在地の記載があり、地域を特定できた144件を分析対象とした。地域の特定されなかったアンケートに関しては、今後、沖縄県全体の集計としてまとめ、次回の研究に活かすこととする。

3. 集計結果

次の表2～表6に集計結果を示す。Q.1～3は沖縄の伝統行事や身近な植物を用いた造形活動を保育に取り入れているかに関する質問。Q.4～6は沖縄の素材を用いた染め・織りの造形活動を保育に取り入れているかに関する質問。Q.7～9はアンケートをお答え頂いている保育士自身の、染め・織りに対する意識調査。Q.10～Q.15は身近な植物を用いた染めに関する質問となっている。

3.1 Q.1～Q.3について

3.1.1 Q.1～Q.3の集計結果

表2. Q.1～Q.3 集計結果 (件数)

	Q.1	Q.2	Q.3
1. はい	140	16	70
2. 過去に取り入れたことがある	3	85	53
3. いいえ	1	43	20
未回答	0	0	1

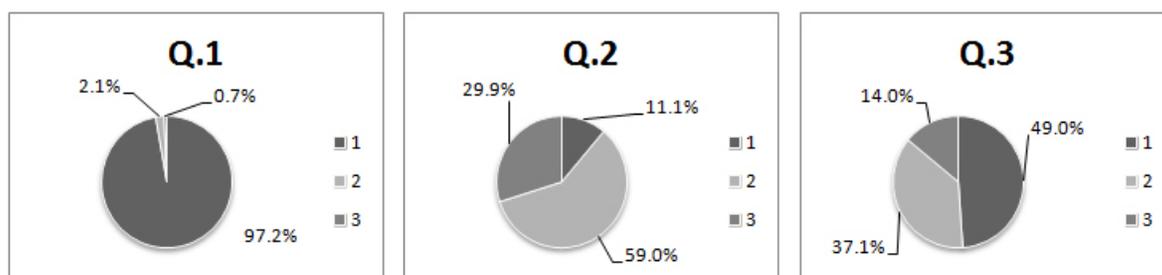


図2 Q.1～Q.3 集計結果 (円グラフ)

【質問項目内容】

- Q1. 保育内容に、ムーチャーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。
- Q2. 保育内容に、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。
- Q3. 保育内容に、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。

3.1.2 Q.1～3集計結果の分析

Q.1の結果より、沖縄を代表する伝統行事であるムーチャーづくりや、お盆の際に踊るエイサーを取り入れている園の割合は97.2%と非常に高い数値を得た。また、Q.3の結果より、現在、落ち葉や木の実を用いた貼り絵やお面作りなどの造形プログラムを取り入れている園の割合も49.0%と高かった。しかし、Q.2沖縄に伝承されてきた玩具製作のプログラムの取り入れに関して、「過去に取り入れたことがある」と答えた園は多かったが、現在取り入れていると答えた園の割合は11.1%にとどまった。

3.1.3 Q.2 に関して

「Q.2.保育内容に、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具制作を取り入れている。」に関して、アンケートのコメント欄の記述から、敬老の日に合わせて招待した祖父母から作り方を教わるという、交流プログラムとして取り入れている園が多いようだった。しかし集計結果から、「過去に取り入れたことがある」と回答した園の割合は高かったが、「はい」（現在取り入れている園）の割合は低いことが分かった。これは、技術を伝承する側（大人）と技術を伝承される側（子どもたち）、そして自然環境の変化にも原因があるのではないかと考えられる。伝える側の原因として、技を伝承できる大人が少なくなっている現状がある。実際に、「伝承できる祖父母世代がいなく、継承が難しい」との声がアンケートにもあった。また伝えられる側の原因としては、テレビやゲーム、スマホなどの通信機器を用いた玩具が環境に溢れており、自然物を用いた玩具に触れる環境がない、身近にそのような玩具を見たことがない、といったことが考えられる。そして近年の自然環境の変化から、子どもの身近に素材となる植物自体が少ないのではないとも考えられる。しかし一方で、2016年9月末に沖縄こどもの国のイベント内にあった伝承玩具制作体験コーナー（マーニーを編んだ熱帯魚、カタツムリ、馬などの玩具制作）は親子連れでにぎわい、子どもたち自身が玩具制作に興味を持ち、取り組んでいる様子が伺えた。祖父母や地域交流も大切ではあるが、保育士自身、そして子育て世代の保育者自身が伝統玩具の制作方法を学び、家庭や保育所・保育園などでの日常の活動へと積極的に取り入れられたら良いのではと、考えさせられる光景であった。

ここで、Q.2に関して、地域別集計円グラフを図3に示す。

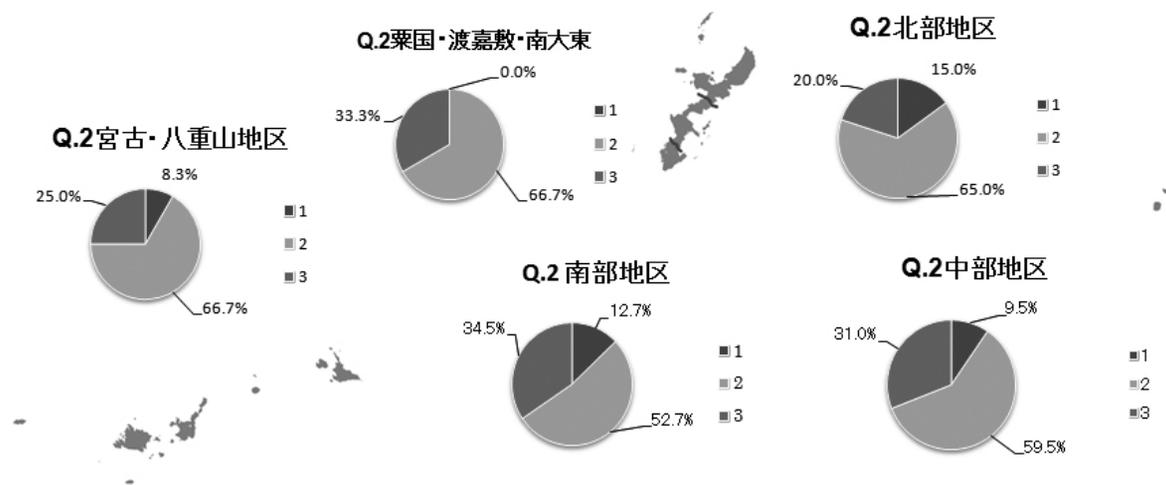


図3 「Q.2保育内容に、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている」に関する地域別集計結果

現在、沖縄に伝承されてきた玩具制作を活動に取り入れている園の割合は、北部地区で15.0%、南部地区で12.7%、中部地区と宮古・八重山地区では10.0%を切り、粟国・渡嘉敷・南大東は0.0%であった。北部地区は宮古・八重山の2倍近い数値となっているが、それでも15.0%であり、決して高い割合とは言えない。

3.2 Q.4～Q.6について

3.2.1 Q.4～Q.6の集計結果

表3. Q.4～Q.6 集計結果 (件数)

	Q.4	Q.5	Q.6
1. はい	36	6	12
2. 過去に取り入れたことがある	22	16	30
3. いいえ	83	121	101
未回答	3	1	1

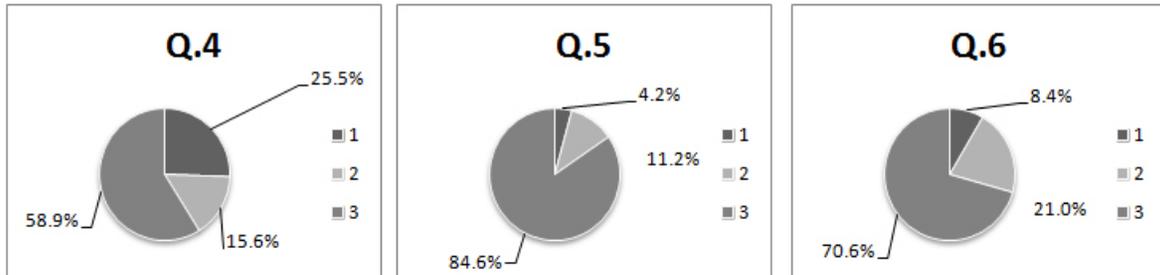


図4 Q.4～Q.6 集計結果 (円グラフ)

【質問項目内容】

- Q4. びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。
- Q5. びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。
- Q6. 身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。

3.2.2 Q.4～6 集計結果の分析

Q.4の結果より、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられているの割合は25.5%であった。アンケートの自由記述欄で「エイサー衣装に紅型を取り入れています」と書いている園も数件あった。エイサーや獅子舞などの伝統舞踊に合わせ、衣装として取り入れているところが他にもあると思われる。一方、「Q.5びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。」では「いいえ」と答えた園が84.6%、また「Q.6身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている」でも「いいえ」と答えた割合が70.6%にのぼった。保育所・保育園生活においては、子どもたちが沖縄の染めや織りに触れ、体験できる機会が少ないことが分かる。

3.2.3 Q.6に関して

「Q.5びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。」で「いいえ」と回答した割合が84.6%と高くなった原因として、本格的な伝統工芸体験を保育内容に取り入れるための指導者がいない、道具が揃っていない、身近に体験できる工房などの環境がないことが考えられる。また、本格的な伝統工芸に対して敷居が高いと感じる部分もあるのではないだろうか。「Q.6身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。」に関しても、「いいえ」と回

答した割合が70.6%と高い割合を示した。Q.6に関しては、染めの材料は身近にある植物であり、染めに使う道具も、通常調理に使用する器具・道具で十分である。つまり、保育士が草木を染める方法を知らない、もしくは保育士が本格的な染織方法を知っていて、銅や鉄、石灰などの触媒を保育現場で用いることに抵抗がある、ということが考えられる。また、「植物のかぶれが気になる」という声がアンケート自由記述欄に2, 3件あった。それも原因の一つであろう。

様々な要因が活動への壁となっていると考えられるが、昔ながらの染物には、日常身の周りにある物を用いた染めが行われており、触媒や定着液として石灰水や酢、ミョウバン（お漬物などの色止めに使われている）があれば、大抵のものは染められる。染料としては、植物のサンニン（月桃）、フーチバー（ヨモギ）、うっちゃん（ウコン）などが利用できる。これらは食品としても用いられており、かぶれの心配も少ない。実際のアンケートにも、「園庭に生えているヨモギや、散歩道にある月桃・紅芋染め、近所に咲いているハイビスカス等を煮立たせて染物をしています（竹富町）」という記述や、「年長さんがマリとコマを入れる袋を自分たちで縫います。その布を毎年ウージ、ハイビスカス、月桃、くちなし、玉ねぎなどで染めています（担任によって違います）。昨年とはたまた知り合いの方に教えてもらって、ベンガラ染めをしました。その袋（ひもつき）は小学校に行って、体育着入れにみな利用しています。（南城市）」という記述もあった。こういった取り組みを調査しまとめることで、他の園が活用できるようにすると、身近な植物での染めを日常の活動に取り入れやすくなると思われる。染めだけではない。サンニン（月桃）の茎は生の状態でハンマーでたたいて繊維をとり、ムーチーを包む紐として昔は使われていた。乾燥させた繊維を編んでコースターを作ることもできる。そういう活用方法を広めることは、沖縄の造形保育を豊かにする一助になるのではないかと思う。

3.2.4 Q.6に関する地域差

Q.6に関して、地域別集計の円グラフを図5に示す。

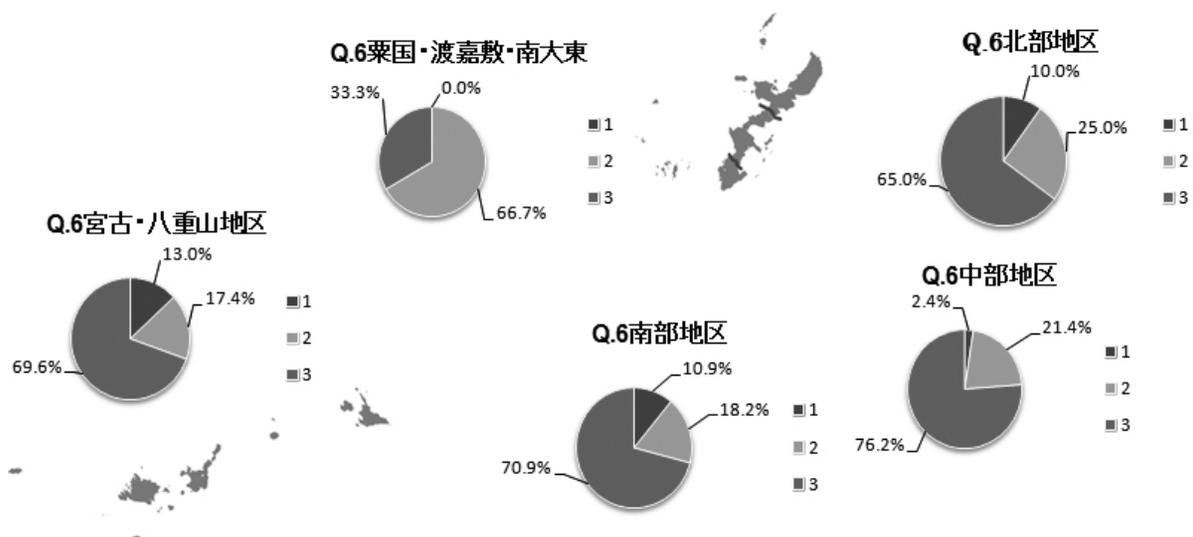


図5 「6.身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。」に関する地域別集計結果

「6.身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。」に関して、北部地区、南部地区、宮古・八重山地区では「はい」と回答した割合が10%を超えていたが、中部地区になると2.4%と極端に減り、粟国・渡嘉敷・南大東の「はい」と答えた件数は0.0%であった。ただし、粟国・渡嘉敷・南大東では「過去にとりいれたことがある」の割合は66.7%にのぼり、経験率としては全地区の中で一番高い割合を示している。

北部地区は、喜如嘉の芭蕉布や藍染が有名であり、南部は琉球絣やウージ(さとうきび)染め、久米島は紬、宮古・八重山は上布の産地であり、住民の意識に染め織りの伝統工芸に対する意識がしっかり根付いているのかもしれない。南部地区の園からは、「ウージ染めを取り入れています」との記述が数件あった。これらの地域では植物で布や紙を染めたり、また繊維を用いてコースターやタペストリーなどを織る機会が多いのだろうか。また北部地区からは「保育園でわらべ歌遊びを保育の中に取り入れている、お手玉を作る布を「うこん」で絞り染めを行いました。(5歳児)。お手玉を作る予定です。現在は「うこん」を植えて育てていて、黄色染まったうこんがどんな花を咲かせるか観察中です。」との記述もあった。この北部の事例に関して、植物を園庭で育て、観察し、また染めることによって「うこん」という植物に対する子どもたちの生きた知識が、より豊かになると感じられる事例であった。

ここで、中部地区の値の低さが気になるところである。中部地区では読谷山花織や知花花織などの織物が有名だが、知花花織に関しては、戦後途絶えていた技術が復興したのが近年であり、平成24年7月に国の伝統的工芸品として指定されたばかりである。また、地域に浸透するには時間がかかるのかと思われる。読谷や知花といった特定の地域に限らず、染めと同様、気軽に体験できるような簡易織り技法や、簡易織り機などがあると、園での活動に取り入れやすいのではないかと思う。花織の、あの星空のような美しい模様を伝えるために、何らかの形で保育所・保育園での造形活動に生かせられないか、今後の研究課題である。

3.3 Q7～Q.8について

3.3.1 Q7～Q.8の集計結果

表4. Q.7～Q.8 集計結果 (件数)

	Q.7	Q.8	Q.9
1. はい	115	89	61
2. まあまあ	27	50	48
3. あまりない	1	4	34
未回答	1	1	1

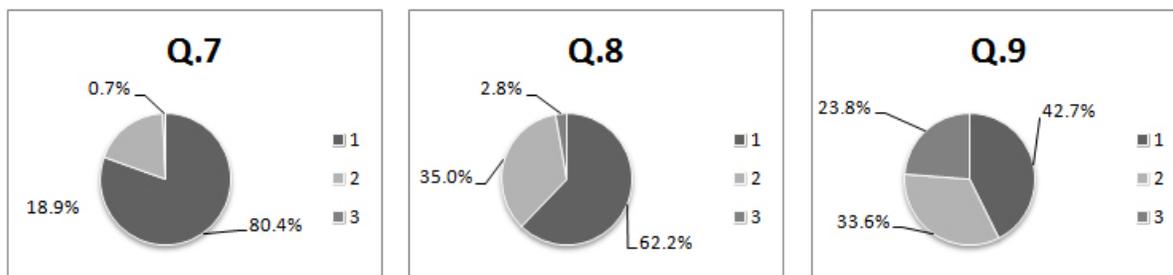


図6 Q.7～Q.8集計結果 (円グラフ)

【質問項目内容】

Q7. 沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？

Q8. 沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？

Q9. 沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？

3.3.2 Q.7～Q.9 集計結果の分析

集計結果から、Q.7「沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？」では8割を超える保育士が「はい」と答えており、沖縄の植物に対する関心の高さが伺えた。しかし、Q.8「沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？」では「はい」と回答した割合は約6割と下がり、さらにQ.9「沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？」では、「はい」と答えた割合は42.7%にとどまった。子どもたちを取り巻く自然環境としての「沖縄の植物」への関心は高いが、それらが素材として用いられる沖縄の美術工芸に対しては若干、興味関心が下がるようである。

第2次世界大戦後、沖縄の多くの美術工芸品が焼失し、残った美術工芸品も県外、国外へと散逸した。戦後、県外で戦火を免れた美術工芸品の一部が近年、沖縄へ戻された。それらは那覇市歴史博物館や浦添市美術館、そして2007年に移転・開館した県立博物館・美術館などで鑑賞することができるが、国宝級の美術品を多くの県民が享受できるという豊かな環境とは程遠いのが現状である。また、どれほど多くの秀逸の美術品が国外へと渡り、かの地の美術館・博物館等に収蔵され、研究され、そして高い評価を受けているのか、沖縄県の研究者自身も広範囲には把握できていないのではないだろうか。そうした沖縄の環境が、保育者・教育者の伝統工芸美術に対する意識にも大きく影響していると筆者は考える。また、現在生産されている美術工芸染織品に関して、当然ではあるが、手織りや手染めの商品は高価であり、日常使いをするには不向きである。廉価なプリント紅型や、外国製の絣が身近に広がっており、本物に接する機会も少なく、県民が日常生活においてその価値を十分に知る環境がない。だれもが文化的に豊かな環境に暮らせるにはどうしたら良いのか、考えていく必要がある。

ちなみに、Q.8「沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？」という質問に関して、「はい」と答えた割合は各地域とも55%～65%の範囲に収まり、地域間での大きな差異は見られなかった。

3.4 Q.10～12について

3.4.1 Q.10～12の集計結果

表5. Q.10～Q.12 集計結果（件数）

	Q.10	Q.11	Q.12
1. はい	27	10	45
2. 少し知っている	58	25	30
3. あまり知らない	59	109	69
未回答	0	0	0

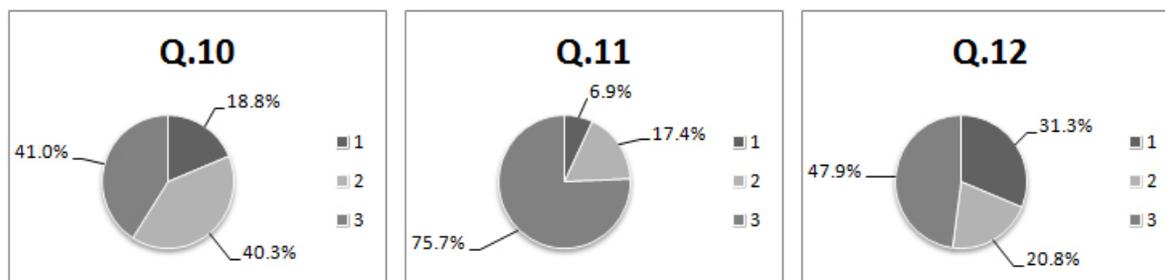


図7 Q.10～Q.12の結果（円グラフ）

【質問項目内容】

- Q10. フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？
- Q11. 「たたきぞめ」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？
- Q12. 草木染めを実際に体験したことはありますか？

3.4.2 Q.10～12 集計結果の分析

Q.12「草木染めを実際に体験したことはありますか？」では、「はい」と答えた保育士の割合は3割を超え、3人に1人は草木染を経験していることが分かった。しかし、Q.10「フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？」という問いで、「はい」と答えた保育士の割合は18.8%にとどまり、また、Q.11「たたきぞめ」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？」に関しては、「はい」と答えた保育士の割合はわずか6.9%であった。草木染の経験の割合に比べ、身近な植物を用いた染めは意外に知られていないことが分かった。

草木染めの体験者が3割いるということであれば、簡単な草木染についてまとめた方法書などがあると、保育現場への導入の際のハードルが低くなるのではないかと考えられる。植物から色が染まる不思議にも感動するが、叩き染めなどは、改めて葉の形や色に注目するきっかけとなり、普段何気なく見ているようでいて見えていない自然環境を知る、いい体験になる。草木染めに関して、草木染めを科学的な視点からとらえた論文が琉球大学紀要第83号p.p. 49-54（『身近な自然を題材にした草木染めワークショップの開催－社会人向け生涯学習プログラムの一例－』、佐藤、寛之；新垣、志保；吉岡、由恵；杉尾、幸司、2013年）にまとめられている。この論文は、草木染めの工程を科学の視点から見つめるワークショップを行っている。触媒によってはリトマス紙のように染液が鮮やかに変化する様子は、大人も子どもも夢中にさせるものである。造形に科学の視点も合わせたプログラムにできると、環境への視野がさらに広がり、理解が深まると思われる。今後、造形プログラムを組み立てる際の参考材料としたい。

3.4.3 Q.12に関する地域差

Q.12に関して、地区別集計の円グラフを図8に示す。

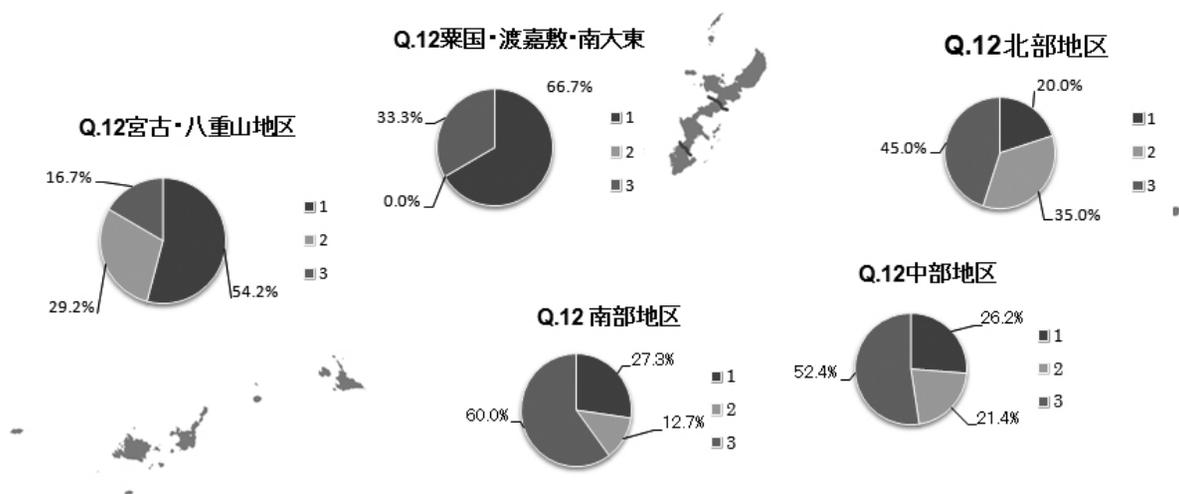


図8 「Q.12草木染めを実際に体験したことはありますか？」に関する地域別集計結果

ここで注目すべきは、やはり、宮古・八重山地区や粟国・渡嘉敷・南大東といった離島群（久米島は南部地区のデータに入るため除く）の保育士の草木染め体験率の高さではないだろうか。なぜ離島の保育士の体験率は高いのか。南部地区、中部地区、北部地区では体験率が20%台であるのに対し、宮古・八重山地区では54.2%、粟国・渡嘉敷・南大東では66.7%の保育士が「はい」と答えている。琉球王朝時代に、王府に上布等を貢納していたという歴史的環境が、こうした体験率の高さに繋がっているのか。そうすると、北部地区で藍染の盛んな喜如嘉では、草木染めの体験率は高いのかもしれない。今回の調査結果からは、原因に関して推測の域を出ない。この地域差が見られた原因については今後の研究課題としたい。

3.5 Q.13～Q.15について

3.5.1 Q.13～Q.15の集計結果

表6. Q.13～Q.15 集計結果（件数）

	Q.13	Q.14	Q.15
1. はい	133	117	126
2. 過去に／まあまあ・少し	11	24	18
3. ない／あまりない・あまり知らない	0	1	0
4. 未回答	0	2	0

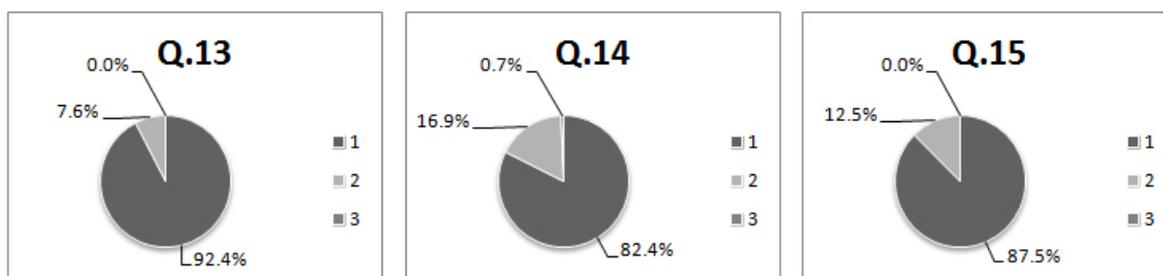


図9 Q.13～Q.15 集計結果（円グラフ）

【質問項目内容】

- Q13. 子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？
- Q14. やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？
- Q15. やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？

3.5.2 Q.13～Q.15 集計結果の分析

アンケート終盤になるが、「Q.13子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？」という質問で、9割を超える保育士が「はい」と答えている。環境を通じた保育を目標としている姿勢が伝わってくる結果である。また、「Q.14やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？」では82.4%、「Q.15やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？」では87.5%の保育士が「はい」と答えている。身近にある植物を、手近にある器具と材料で染められる技法を普及できたらと、強く感じられる結果であった。

4. その他

今回アンケートの自由記述欄に、「くわの実、ヤマモモのジャム作り。(具志川市)」を回答している園があった。植物から生み出される美しい形状や動きを目で楽しむだけでなく、「嗅覚」や「味覚」も取り入れながら、植物を楽しみ味わうことのできる、素晴らしい取り組みだと思う。ムーチーづくりだけではなく、地域や園の自然環境に合った、豊かな食育活動についても調べてみたいと考えさせられた記述であった。

5. 結論

アンケートの結果から、9割を超える保育士が、子どもたちにもっと沖縄の自然・環境に触れてほしいと強く願っており、約半数(49.0%)の園では、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている現状を知ることができた。しかし一方で、昔ながらの伝承玩具であるアダンの葉やソテツの葉の編組(編む・組む)を生かした風車や虫籠作りなどを保育プログラムに取り入れている園の割合は約11%にとどまった。また、やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？という問いに「はい」と答えた保育士の割合は87.5%と高かったが、実際に保育士自身が草木染めを体験している割合は3割程度であり、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている園の割合は8.4%、更にびんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている園の割合は4.2%と僅かであった。

保育士自身の染め体験率には地域差も見られた。宮古・八重山地区やその他離島では、保育士の染め体験率が高く(宮古・八重山地区54.2%、粟国・渡嘉敷・南大東66.7%)、また宮古・八重山地区では現在も、沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの染め物を、園の活動に取り入れている割合が全地区の中で一番高かった(13.0%)。歴史的環境を含めた離島の地域環境が、そのまま保育士としての人的環境、そして子どもたちの環境へとつながっていることを示しているのではないだろうか。この件に関しても引き続き調査・研究を進めていきたい。

6. まとめ

子どもたちに草木染めを体験させるには、まず保育士自身の体験が不可欠である。保育士自身の草木染め体験の割合を高めるためには、手近で身近な材料を用いた草木染めの方法をまとめた冊子等があると、園の活動へも取り入れやすくなるのではないかと感じた。今後、園へ出向いての草木染めワークショップや、すでに草木染めを取り入れている園へのフィールドワークを通し、身近で手軽な草木染めの方法をまとめる研究作業を進めていきたい。また、草木染めだけではなく、アダンの葉やソテツの葉を用いた昔ながらの伝承玩具も、祖父母や地域の年配の方から伝承する機会を設けるだけではなく、保育士や保育者自身も習得し、豊かな自然を子どもたちと共に享受することが望ましいのではないかと感じさせられた。伝承玩具には工芸の編組（編む・組む）の要素が入っており、箆（ざる）や籠製作へも関心を広げていく。

人が地域に根差した伝統や文化、それらを生み出してきた自然環境や歴史的背景を学ぶと、のちに他の地域の文化や人々と交流したときに、自分との違いを感じとり、大きな視点で、そして身体全体で交流の体験を吸収できるようになる。沖縄という根っこを携え、世界へと羽ばたいていける子どもたちを育てるためにも、保育者自身が沖縄の自然、文化、芸能を知り、子どもたちへと伝えていくことが求められている。

今回の調査を通し、「地域に根差したさまざまな素材を用い、子どもたちの感性を育て、創造性を刺激できるような魅力的、かつ楽しい造形プログラムの作成」の必要性を改めて強く感じた。今後、ワークショップやフィールドワークを行い、現場で活かせる美術造形プログラムの作成や、子どもたちと保育者がともに自然環境を豊かに享受できるような、染織り製作プログラムをまとめる研究を進めていきたい。

【参考文献】

1. 井上美智子・無藤隆・神田浩行編著,2010,むすんでみよう子どもと自然—保育現場での環境教育実践ガイド—,北大路書房.
2. Mariah Bruehl著,2011,Playful Learning—Develop Your Child’s Sense of Joy and Wonder—, Roost Books.
3. 小串里子,2011,みんなのアートワークショップ—子どもの造形からアートへ—,武蔵野美術大学出版局.
4. 磯部錦司・協力／『新幼児と保育』編集部・編集,2016,子どもとアート—生活から生まれる新しい造形活動—,小学館.
5. 山下久美監修,2012,フレールベルの図鑑ナチュラふしぎをためす図鑑,フレールベル館.
6. 沖縄生物教育研究会編著,2014,フィールドガイド沖縄の生きものたち改訂版,新星出版株式会社.
7. 安里肇栄著,2013,おきなわの山の花さんぽ,ボーダーインク.
8. 沖縄県立博物館・美術館編集・発行,2010,ものづくり今昔—自然の恵みを活かす—
9. 村田浩子著,2013,子どもと楽しむ染め時間！～つくって四季を感じよう～,かもがわ出版.
10. 松本道子著,2011年,楽しんで、ナチュラル染色—子どもも一緒に楽しめる染色の本—,学校法人文化学園文化出版局.
11. 佐藤寛之・新垣志保・吉岡由恵・杉尾幸司,2013,身近な自然を題材にした草木染めワークショップの開催—社会人向け生涯学習プログラムの一例—琉球大学教育学部紀要第83号 p.p.49-54,琉球大学.

【付録】

「保育現場における幼児と沖縄の植物とのかかわり」についてのアンケート

実施：2016年8月

保育所・保育園での取り組みについてお伺いします。下記の該当するところに○をつけて下さい。				
1. はい 2. 過去に取り入れたことがある 3. いいえ				
Q.1.	保育内容に、ムーチャーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。	1	2	3
Q.2.	保育内容に、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。	1	2	3
Q.3.	保育内容に、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。	1	2	3
Q.4.	びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。	1	2	3
Q.5.	びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。	1	2	3
Q.6.	身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物製作を取り入れている。	1	2	3
アンケートを答えて下さる保育士の先生へ 下記の該当するところに○をつけて下さい。				
1. はい 2. まあまあ 3. あまりない				
Q.7.	沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？	1	2	3
Q.8.	沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？	1	2	3

		1.はい 2.少し知っている 3.あまり知らない		
Q.9	沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？	1	2	3
Q.10	フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？	1	2	3
Q.11	「たたきぞめ」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？	1	2	3
		1.はい 2.少しある・少し思う 3.ない		
Q.12	草木染めを実際に体験したことはありますか？	1	2	3
Q.13	子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？	1	2	3
Q.14	やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？	1	2	3
Q.15	やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？	1	2	3
<p>保育所・保育園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容をお教えいただければ幸いです。</p>				

※アンケートは本調査に関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用いたしません。

実施者：沖縄キリスト教短期大学保育科 佐久本邦華
お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございます。